

1. 対象事業の概要

1.1. 公園緑化の検討

1.1.1. 樹林地の保存

(1) 事業予定地の樹林地の状況

事業予定地の樹林地の位置、及び現況は図 1.1-1、写真 1.1-1 及び 1.1-2 に示すとおりである。また、樹林地地権者に対する聞き取り調査を実施した。調査の結果は、表 1.1-1 に示すとおりである。地権者の意向を踏まえて、関係機関と協議を行い、検討を行った。検討結果は、表 1.1-2 に示すとおりである。

表 1.1-1 樹林地に関する調査結果

番号	過去の状況等	現況利用	地権者意向
①	・50年前に地内の杉を利用して現在の家を建てた。 ・利用できない小さな木はそのままにし、新たに植林はしなかった。	・50年前にそのままにしていた木が生長した状態である。 ・地権者は、樹木の管理が大変で困っている。	・杉が中心であり、新しい住民に迷惑をかけたくないので、できれば伐採をしたい。
②	・旧河川の堤防 ・堤防に小さな木があった。	・雑木林であり、もみ殻を捨てる時もある。 ・4～5年前に隣接して住宅地が出来た。 ・地権者は、新しい住人に迷惑がかわらないように、落ち葉対策として、樹木の一部を伐採した。	・近隣対策に困っているので、宅地にしてほしい。
③	・旧河川の堤防 ・堤防に小さな木があった。 ・護岸の為に竹が植えられていた。	・ほとんどが竹林。 ・昔の竹が生長しているが、地権者は管理をしていないので、殺伐とした状態である。 ・稀にゴミが捨てられている。	・既に迷惑になっているので、伐採してほしい。 ・公園として利用する場合は、管理をしっかりとしてほしい。
④	・70～100年ほど前から木はあった。 ・地域ではそれほど歴史がある認識はない。	・主に杉の一群の樹林となっている。 ・地権者は、特段利用は考えていない。 ・地権者による下刈り等の管理はしている。	・特に何も考えていない。 ・事業方針（周辺の土地利用）によって考えたい。
⑤	・それほど歴史はない（50～60年程度） ・風よけに木を植えていた。	・地権者は、日常の管理はしていない。その結果、竹が生長し殺伐とした状況である。 ・杉も植えられていたが、数年前に伐採した。	・竹林がほとんどであり伐採したい。
⑥	・旧家(庄子家本家)の屋敷跡 ・屋敷内の神社まわりの木であった。	・特段管理はしておらず、雑木と竹林がほとんどである。 ・下刈りもしていないため、管理はますます困難になると推測される。	・特に何も考えていない。 ・事業方針（周辺の土地利用）によって考えたい。
⑦	・100年ほど前までは、屋敷林として存在した。 ・杉など用材が多く植えられていた。 ・最近だと150年前に使用した。	・50～100年前に用材はすべて伐採し、現在は雑木や竹林がほとんどである。 ・一部杉が群生している。杉の落ち葉は酸性が強く畑にかかると迷惑なので地権者は落ち葉の除去をしているが、大変である。 ・常緑樹は冬日陰となり迷惑である。一部の範囲は数年前に伐採した。 ・樹林そのものは特段管理していない。 ・竹林がほとんどの場所もある。 ・ハクビシンがいた時期もある。 ・この地区は歴史があるが、現在はほとんど利用していない。	・公園内に樹木を残すのであれば管理をしっかりとしてほしい。 ・杉を残すことには賛成しない。 ・落ち葉の掃除が大変なので、木を残すのであれば、後で生活する人のことを考えて管理をしっかりとしてほしい。 ・仙台市からも保存樹木の制度の説明を受けたが、求めている内容とかけ離れた印象を受けた。地元任せだけではなく、具体的な管理策を持って頂きたい。 ・樹木も大切だが、そのまま中途半端に残すとネズミの生息場所になる。市街地ではネズミが害獣であり、バランスを考えてほしい。

- ・地権者に対する聞き取り調査
- ・番号は樹林の位置（図 1.1-1 参照）

表 1.1-2 樹林地に対する検討結果

番号	行政協議	土地利用の検討内容
①	・農業用排水路の管理のために道路を設置することとなった。 (協議先：仙台市経済局農林土木課、名取岩沼土地改良区)	・左記の道路計画については、農林土木課、名取土地改良区との協議上決ったことなので実施が必要である。残された樹木については、その保全を地権者へ要請する。
②	・樹木を残した場合、策川との間に管理できない土地が生じる。 (協議先：国土交通省仙台河川国道事務所、仙台市建設局道路管理課)	・樹木を完全に残そうとした場合、隣接する策川との間に未利用地が生じるため、住宅地内の防犯上課題があると地域住民は考えている。 ・道路設置の計画、樹木の分断を避けることはできないため、残された緑地の保全を地権者に要請する。なお、樹林地を分断する道路ではあるが、それにより樹木の管理を行いやすくなるという利点もある。
③	・整形な形の公園となるように、道路の計画をすること。 (協議先：仙台市建設局公園課)	・今後の実施設計等の協議において、公園管理者にたいして、現況の自然環境をできる限り保全するように要請をする。
④	—	・現行計画においては、樹木の伐採の必要がないため、現計画のままとする。 ・あわせて樹木の保全について、地権者へ要請をする。
⑤	—	・現行計画においては、樹木の伐採の必要がないため、現計画のままとする。 ・あわせて樹木の保全について、地権者へ要請をする。
⑥	・既存道路との連続性と交差点形状に配慮し、道路を計画すること。 (協議先：仙台市建設局道路管理課、宮城県警察本部交通規制課、仙台南警察署交通第一課)	・将来の下水道幹線のルートとなるため、一部の緑地の分断は避けられない。一方で、大径樹木がまとまっている地区（南側）については、保全が可能である。 ・保全が可能な樹木については、樹木の保全を地権者に要請をする。
⑦	・交差点形状や道路線形に留意した道路計画とすること。 (協議先：仙台市建設局道路管理課、宮城県警察本部交通規制課、仙台南警察署交通第一課)	・図 1.4-4 参照

・番号は樹木の位置（図 1.1-1 参照）

（２）⑦地区における既存緑地の状況をふまえた見直し検討

⑦地区は、本事業地区において主要な緑地領域であることから、保全を前提としたより慎重な計画検討を行った。

検討については、以下の手順で進めた。

1) 図 1.1-2 に示す通り、当地区の「緑地状況（黄緑の塗り潰し）」に対して、「樹木群（緑の太破線）」と「大径樹単体（赤丸）」の状況を整理した。現況写真については、写真 1.1-3 及び 1.1-4 に示すとおりである。

2) 上記の調査結果に、現計画線を重ね、可能な限り「樹木群（緑の太破線）」と「大径樹（赤丸）」を保存するように、図 1.1-3 のとおり 4 号公園の位置を見直し検討を進めた。

なお、計画上の制約条件（コントロールポイント）としては、

①移設不可能な水道管が埋設されている道路

②調整池へ向かう雨水幹線施設（計画）を設置するために必要となる道路
（①の制約道路により、交差点の位置についても制約される。）

③既存住宅（道路）があることによる、道路配置の制約
が上げられる。

これらの条件をふまえて、公園の位置を可能な限り東側へ移動させた。

移動した結果の課題として、

①西側の医療系施設から公園までの距離が遠くなる。

②公園の端部に、既存の家屋が残存する。

事があげられるが、対策として、①については公園への動線確保（歩道、歩行者専用路）の整備により、②については、家屋所有者への配慮（日照条件やフェンス等の対応、説明）によって解決を図りたい。

3) 以上の結果として図 1.1-4 に示すとおり、公園の配置を見直し東側に移動した。なお、公園整備は組合設立後に行う公園管理者との実施設計協議をふまえて、事業者自らが実施する。

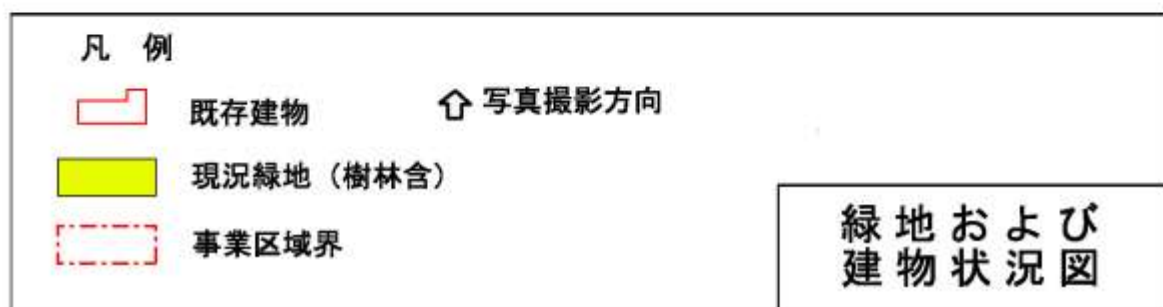
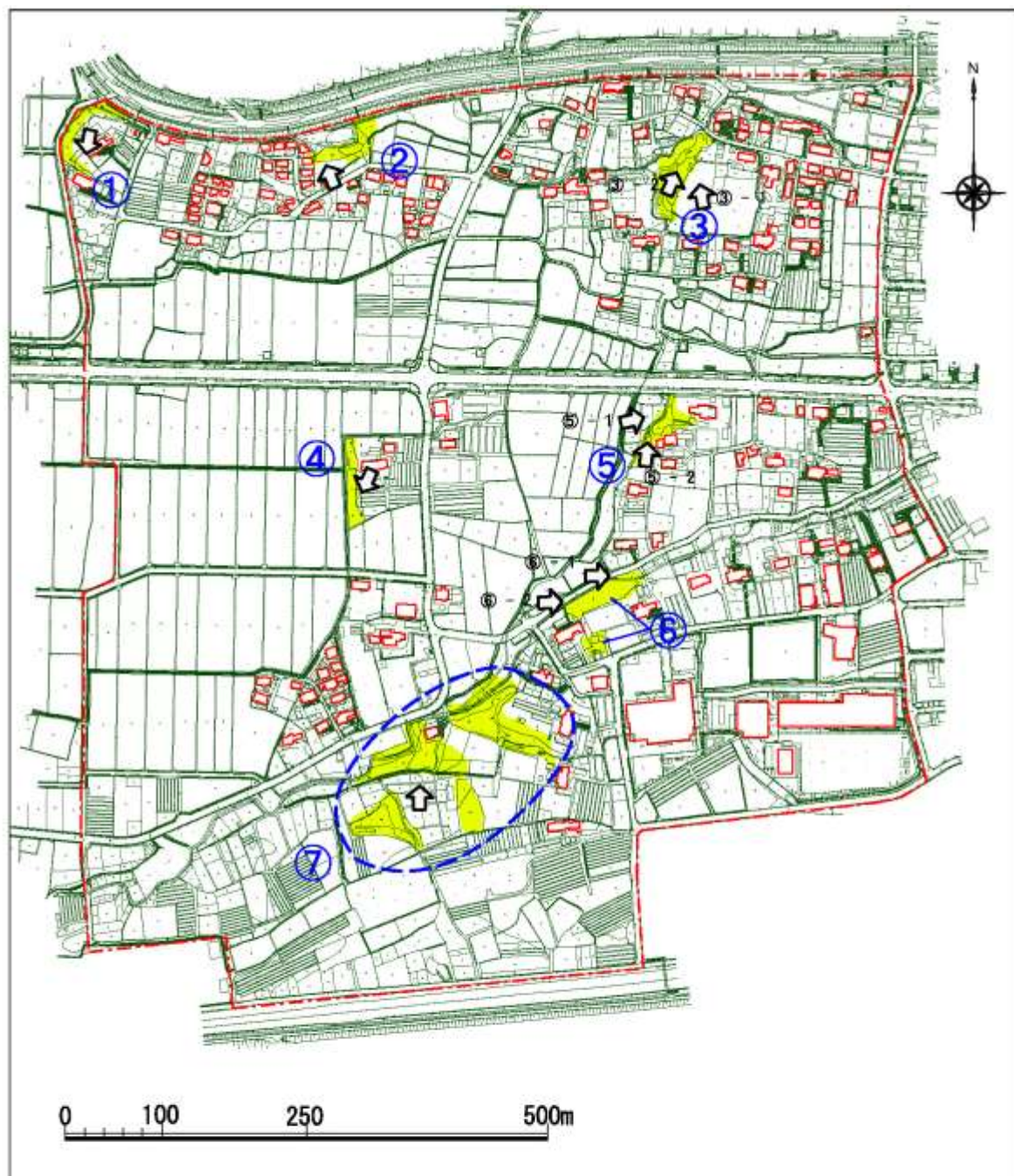


図 1.1-1 樹林地及び建物状況図



写真 1.1-1 現況写真



写真 1.1-2 現況写真

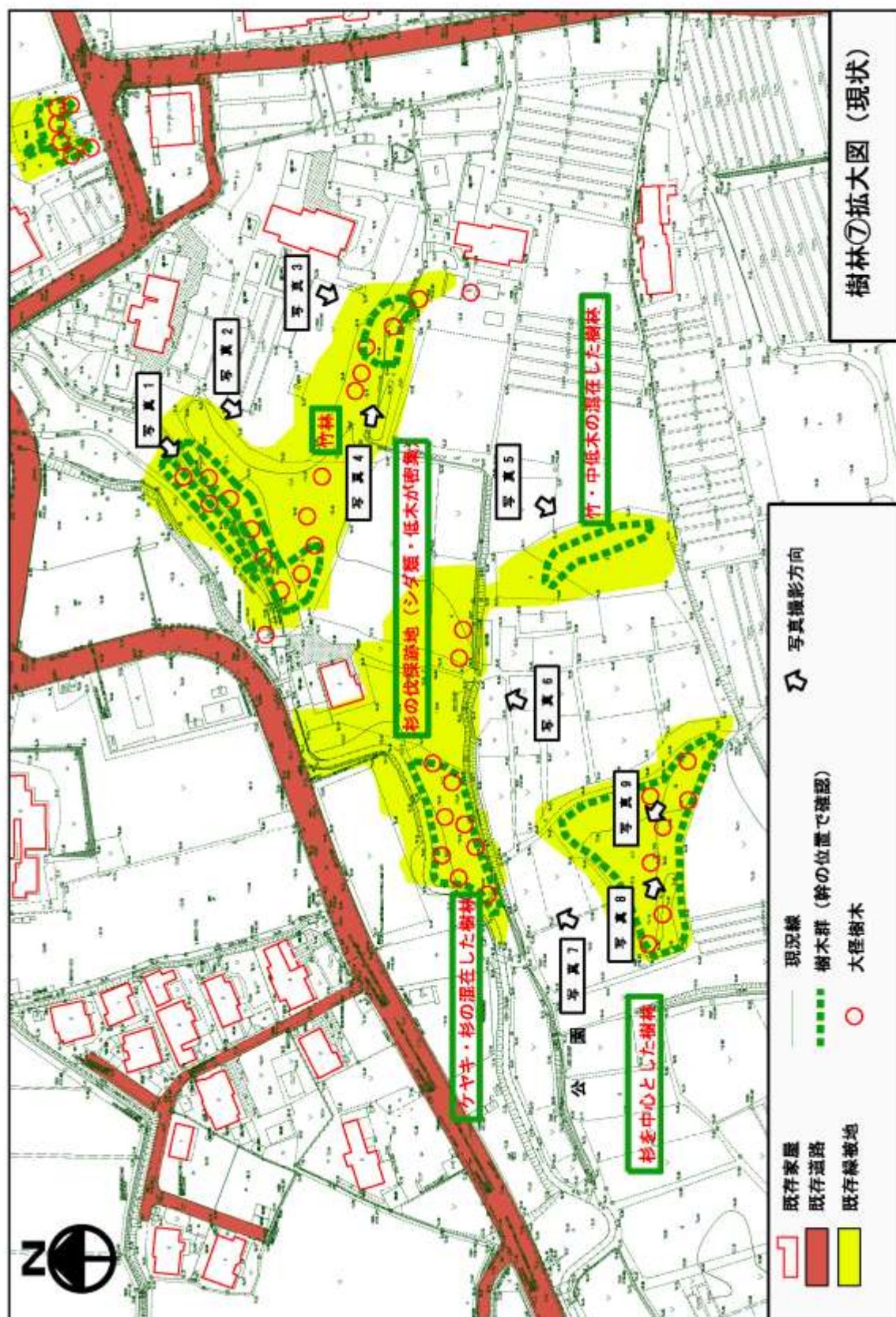


図 1.1-2 樹林地および建物状況図

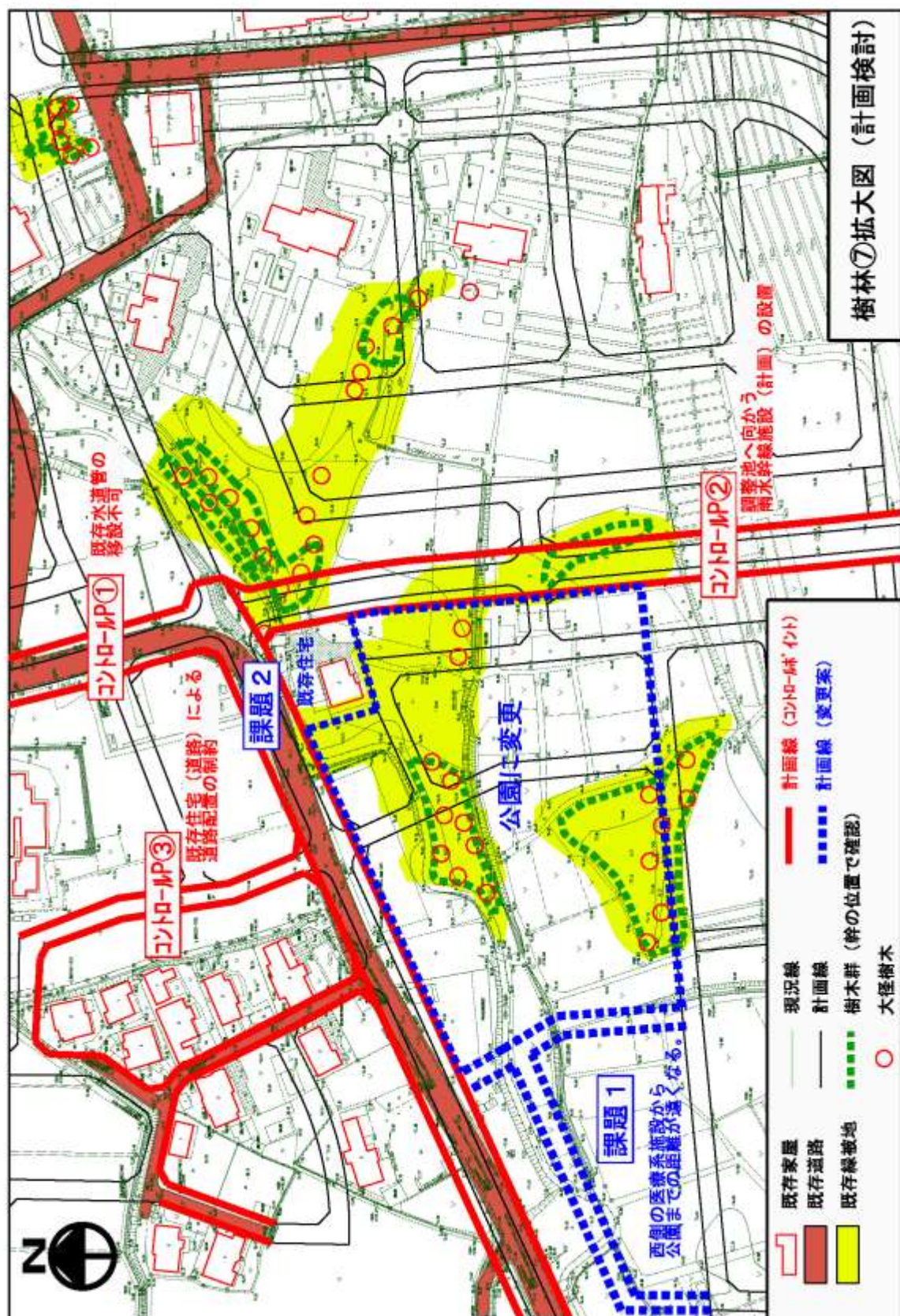


図 1.1-3 樹林地および建物状況図



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4



写真 4

写真 5



写真 6

写真 1.1-3 現況写真



写真 7



写真 8



写真 9

写真 1.1-4 現況写真

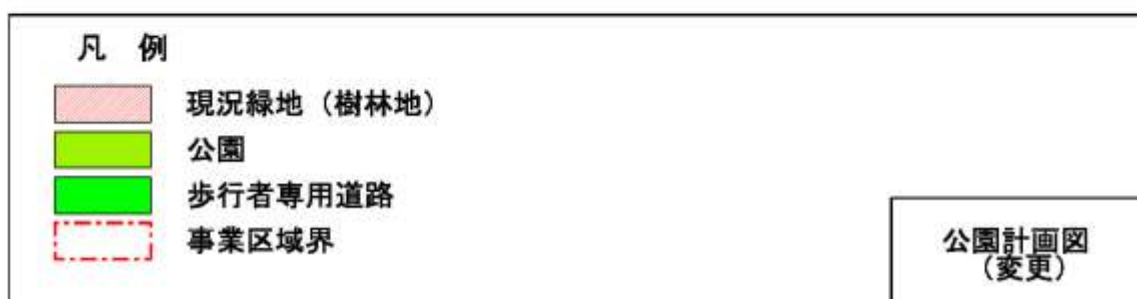
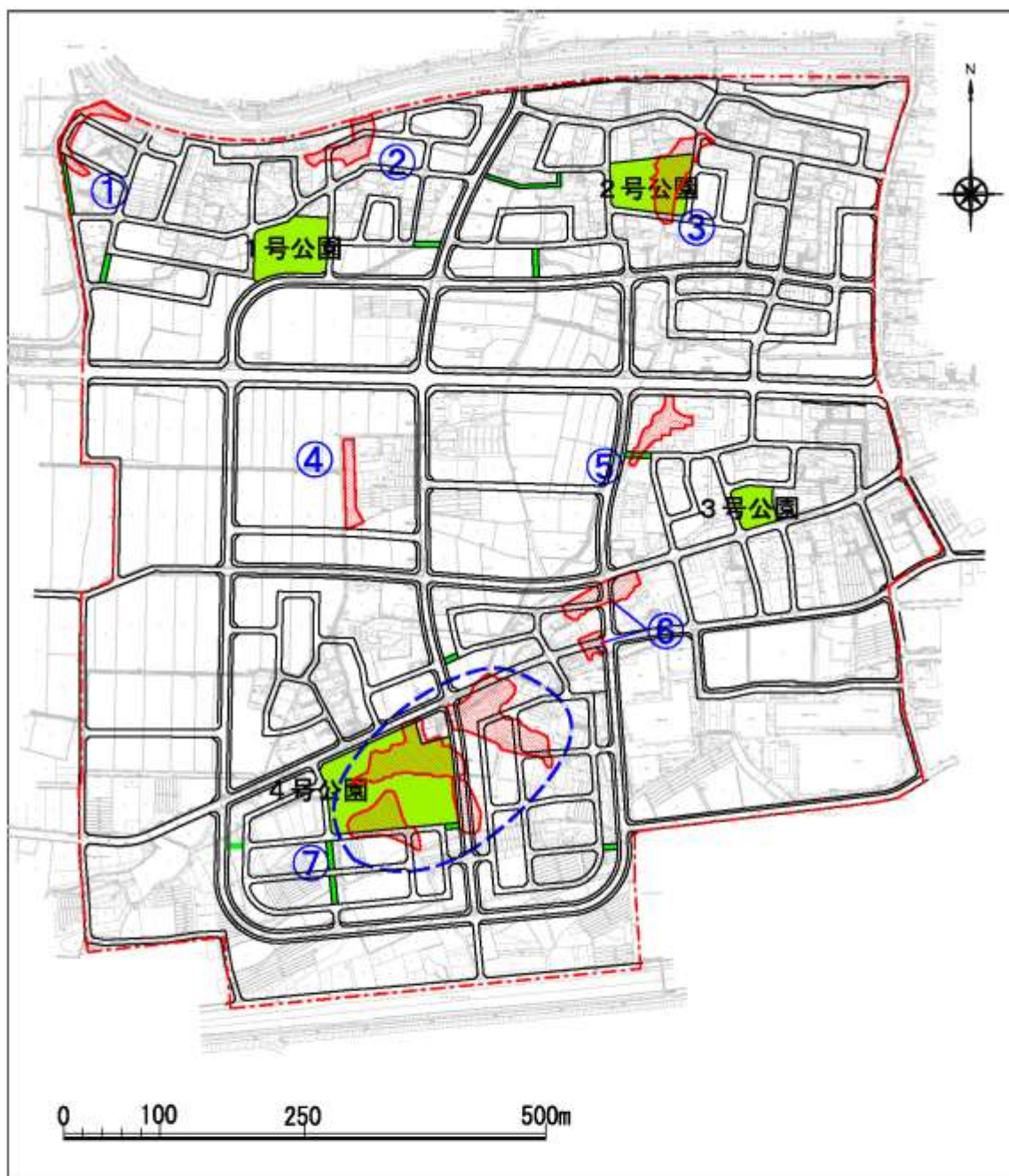


図 1.1-4 公園・既存緑地配置重ね図（変更後）